

# しべちや牛乳★デビュー



約4万頭の牛たちと暮らす標茶町。

本町では、地元の牛から搾られた生乳100%の牛乳がありませんでしたが、「しべちや牛乳」として、みなさんのもとへデビューしました!!

7月24日の「子どもの夢を育てるまつり」で初お披露目し、25日には町内の小中学校のほかに町立病院や幼稚園・保育園に配られ、「おいしい」との声が数多くありました。酪農家や町のみなさんが心待ちにしていたしべちや牛乳は、学校給食のほかにイベントなどで展開される予定です。



7月25日、みどり保育園の園児はおやつの時間においしく飲みました♪

標茶町長

池田 裕二

IKEDA YUUJI



関係者の皆様のご努力に感謝申し上げます。なにより「おいしい」と飲んでくれる子どもたちの笑顔がうれしい。私は牛飼いをしていたとき、「自分の子どもに食べさせたいものを作りたい」との思いを一番大事に、健康な牛を育てること、そして消費者の食卓まで届けることも大切だと、産直にも取り組んだことがあります。自分が生きている同じ土、水、空気、陽光から生産されたものが安心です。大きな空の下、美味しい水と安全なエサ、急がされずに育った健康な牛からの大地の恵み、「もっと牛乳を食べよう」新たなチャレンジにも期待しています。





HARADA NOZOMI

**Q1** しべちゃ牛乳のデザインはどの位の期間でどのように作られましたか？

**A1** 酪農作業や家事の合間の2～3時間を使って10日間ほどで仕上げました。まず、スーパーにあるさまざまな牛乳パックの色や柄、文字の配置、表記サイズなどを調べた後、デザイン作業に入りました。

学校給食用ということ意識し、これまでのミルクックさんに丸みをつけた「ゆるきゃらミルクックさん」とインパクトをつけるために「初代ミルクックさん」の顔面アップの画像も作りました。2パターンのミルクックさんの図案を作成し、他にないパッケージになったと思います。イラストはパソコンで描いているのですが、「しべちゃ牛乳」の文字だけは手書きです。手作り感や特別な牛乳という印象を出したかったからです。

パッケージ全体に使用したブルーの色は、標茶町の清らかな水、澄んだ空気のイメージです。

**Q2** デザインで悩んだことはありましたか？

**A2** 特にありませんが、製作期間が短かったので少し焦りました。(笑) 牛乳のパッケージ作成までにはたくさんの方の工程があることを初めて知り、私も協力できるよう一生懸命作成しました。

**Q3** しべちゃ牛乳が町内の子どもたちに喜んで飲まれていますか、感想はありますか？

**A3** 私の周りでも反響があり、喜んでもらえて良かった！のひとことです。パッケージは脇役で中身の牛乳が主役だと思っていますが、ミルクックさんのパッケージが「私たちのまちの牛乳」として愛着を持つきっかけになれば本当に良かった～♪と思います。子どもたちが手にする牛乳のミルクックさんも満足そうに笑っているように見えました。

**Q4** 今後、しべちゃ牛乳がどのように展開してほしいという思いはありますか？

**A4** ミルクックさんを使った牛乳消費促進PRは平成18年から始まり、念願の「しべちゃ牛乳」ができました。一時のブームではなく、息の長い活動として継続してほしいというのが生産者としての一番の願いです。また、私は大阪府出身ですので、故郷の友だちに標茶町の牛乳を飲んでもらいたいとずっと思っていました。期間限定でも良いので、しべちゃ牛乳のギフト展開をぜひお願いします。

最後になりますが、町や農協のみなさん、牛乳加工工場、パック工場、牛乳を集荷し運送して下さる方、酪農家のみなさん、たくさんの方の働きでしべちゃ牛乳ができあがり、子どもたちの笑顔が見られたことを本当に嬉しく思っています。



TAKATORI TUYOSHI

「子どもたちに標茶の牛乳を」町民の誰もが熱望し、待ち望んでいたしべちゃ牛乳が7月25日に配られました。一学期最後の日はなりましたが、子どもたちに喜んでもらうことができ、長い間の思いが実現しました。酪農の町標茶に生まれたミルクックさんのパッケージのしべちゃ牛乳。いろいろな懸案を一つずつクリアし、町との連携を密にしての実現。まずはほっとしています。将来的には市販も予定しておりますが、イベントなどでみなさんにも飲んでいただき、標茶の顔として広まる事を願っています。